The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	岐阜市方言の文末詞「テ」
Author(s)	芝田, 卓哉
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2008, 8, p. 46-54
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23203
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大社会言語学研究ノート』第8号（2008年3月）46-54

岐阜市方言の文末詞「テ」

芝田　卓哉

【キーワード】岐阜市方言、引用、文末詞、テ

【要旨】

岐阜市方言には文末詞として「テ」が存在し、さまざまな文に現れる。本稿では、この「テ」の意味特徴を記述する。

「テ」は共通語の「って」「ってば」と同じく、引用表現に由来するものと考えられるが、現在の岐阜市方言では引用形式に「ッテ」、伝聞形式には「ト」が用いられ、文末詞「テ」はそれらとは違う機能を果たしている。

本稿では「テ」の機能を３つに分類する。一つ目の「テ」は、話し手の考え・意見・認識と、それに関する聞き手の言動や状況がずれている、ということを明示する機能を持っている（§4.1.～4.4.）。そしてさらに、ずれを明示するという機能から、必然的にその発話を聞き手に強く訴えかけることになり、その強く訴えかけるという機能により同意や賛成を表す文においても「テ」は用いられる（§4.5.）。これが二つ目の「テ」である。そして三つ目の「テ」は対人的ムードの「のだ」のみに後接するもので、「のだ＋テ」の形式で、話し手の認識している既定の事態を聞き手に認識させようという話し手の心的態度を表現するものである（§4.6.）。

1. はじめに

岐阜市方言では、様々な文において文末詞「テ」が多用される。

(1) A：はやく宿題終わらせなさいよ。
　　B：さっきヤッタテ。

(2) A：そんなに嬉しそうな顔してどうしたの？
　　B：聞いてよ、僕、宝くじの2等が当タッタンヤテー。すごくない？

(3) A：昨日レストラン行ッタンヤテー、そしたら大学生ってことで割引してもらえた。
　　B：お前ラッキーだな。

(4) そんなところ歩クナテ。落ちたら怪我するぞ。

本稿は、これら岐阜市方言の文末詞「テ」の意味特徴を明らかにし、記述することを目的とする。

岐阜市方言の文末詞「テ」に関して詳細な記述をおこなった研究は管見の限り見られなかったため、「テ」と同じく引用表現に由来する文末詞を記述した渋谷(2000)、船木(2000)を参考にして、記述を試みた。本稿の構成としては、まず2節で引用表現形式と「テ」の関

係に触れ、3節で「テ」が生起する環境をみる。4節で分析に入り、5節でまとめを行う。

分析にあたっては、岐阜市方言を母方言とする筆者（1986年生まれ。0～18歳で岐阜市、18～21歳で大阪府豊中市に在住）の内省に基づいて例文を作成し、そこから「テ」の機能を考察するという方法をとる。したがって分析対象は若年層における岐阜市方言となり、伝統的な岐阜市方言とは異なる可能性があるが、今回は若年層における「テ」の記述を目的とする。なお、例文を掲出する際には、文末詞「テ」とそれに関わる述語形式をカタカナ表記の方言形で示し、それ以外は共通語訳とする。そのうえで、文法的に不適格な文は*を、文脈的に不適切な文は#を、不自然な文は?をつけて示す。

2. 引用表現形式と「テ」の関係

藤田(1999)では、共通語において、文末に付加された引用表現が発言を強めるということが指摘されている。

(5) おい、こいつめ、いい加減にしろ<u>というんだ</u>。　　藤田(1999:13)より

同様のものに、以下のような例がある。

(6) いい加減にしろ<u>ってば</u>。　　藤田(1999:13)より

(7) いい加減にしろ<u>って</u>。　　藤田(1999:13)より

こうした文末形式はすべて、引用表現の形式である「～と言えば」「～と言う」の変化したものだと考えられている。

これに対応して岐阜市方言では、

(8) いい加減にシロテ。

という言い方があり、これは共通語の例文（6）（7）と同様の意味を表す。岐阜市方言の文末詞「テ」も引用表現形式に由来するものだと考えられる。

また、(9)（10）のように共通語では「って」は引用や伝聞の場合にも用いられ、形式上の区別はないが、(11)（12）のように岐阜市方言では引用に「ッテ」、伝聞には「ト」を用い、「テ」が使われることはない。よって、岐阜市方言の「テ」は引用や伝聞の意味から切り離されており、文末詞としての意味機能の変化が進んでいるといえる。

共通語

(9)　先生が「はやく来い」<u>って</u>言ってたよ。＜引用＞

(10) 山田君が昨日入院したんだ<u>って</u>。＜伝聞＞

岐阜市方言

(11) 先生が「はやく来い」<u>ッテ</u>言ってたよ。＜引用＞

(12) 山田君が昨日入院シタンヤ<u>ト</u>。＜伝聞＞

3. 「テ」が生起する環境

3.1. 文タイプによる制限

「テ」が使われる文タイプについては、以下のように制限がない。

(13) 明日は雨ヤテ（平叙文：叙述）

(14) 俺も食ベルテ（平叙文：意志）

(15) 一緒に行コウテ（平叙文：勧誘）

(16) そんなこといつ言ッタテ（疑問詞疑問文）

(17) 明日雨降ルカテ（YES-NO疑問文）

(18) はやく行ケテ（命令文）

3.2. 他の文末詞との共起関係

岐阜市方言に存在する文末詞「ヨ」「ワ」「ゲ」などとは共起しない。

(19) はやく来イテ｛*ヨ/*ワ/*ゲ｝。

(20) 私昨日、階段から落チテマッタンヤテ｛*ヨ/*ワ/*ゲ｝。

4. 分析

分析にあたっては、特に無標形式と「テ」の対立に焦点を当てて記述を進める。

(21) A：あの本屋、まだ開いてるかな？

B：開イトル｛φ／ヨ／テ｝。

(21) のように、本稿で取り上げる「テ」は「φ」や「ヨ」に置換しても大きく文意の変わらないタイプの文末詞である。ただし「φ」や「ヨ」と全く同じ意味を持つわけではなく、文脈によって使われ方が異なる。未分析である「ヨ」のような他の文末詞と「テ」を対照させると、「テ」の記述を試みる本稿の論旨から逸脱する可能性があるので、以下、形式の比較にあたっては無標形式のみを取り上げる。

4.1. 繰り返しの発話で用いられる「テ」

(8) でも示したとおり「テ」は共通語の「って」「ってば」に相当する用法を持っている。

(22) A：はやく行け。

B：でも。

A：はやく行ケテ。

(23) A：ごめん、明日は参加できない。

B：じゃあ、明日の夜の7時は？夜なら大丈夫？

A：だから、明日は一日中無理ヤテ。

(24) A：面接落ちたかもしれない。

B：お前なら大丈夫だよ。

A：でもすごく緊張して上手く喋れなかったし。

B：そんなに心配しなくても大丈夫ヤテ。

(25) A：昨日はごめん。あんなこと言うつもりじゃなかったんだけど。

B：もういいよ。

A：ほんとうにごめん。ついむきになって。

B：もうイイテ。

(22) ～ (25) のなかで「テ」は、話し手が既に聞き手に述べたはずの情報を、再度繰り返すときに用いられている。以下で述べていくが、「テ」は「話し手が、自らの考え・意見・認識と、聞き手の発話内容とのずれを明示する」というときに用いられる。例えば (22) では、Aが「はやく行け」と言い、はやく行くべきだと思っているのに、それに反してBは行こうとしない。そこに生じた話し手と聞き手のずれを明示するために「テ」が使用されている。「テ」を使用することで、「はやく行けと言っているのに、なぜお前は行こうとしないのだ」という苛立ちを表現することになる。また、(26) のように、先行する話し手の発話が聞き手に聞こえていない場合でも同様に「テ」が用いられる。

(26) A：おい。

B：(Bの返答が無い)

A：おいテ。

以上の用法は、共通語の「って」「ってば」に相当する用法である。

4.2.　聞き手の発話に対して用いられる「テ」

「テ」には、話し手が聞き手に対して既に伝えた発話があることを前提とする用法だけでなく、先行する話し手の発話が無くても使用することができる。

(27) A：山田君はこの計算問題解けるかな？

B：あいつには無理ヤテ、こんな難しい問題。

(28) A：悪いんだけど、酒買ってきてくれない？今からここで飲み会開くんだけど。

B：そういうことはもっと前に言エテ。学校帰りに買ってこられたのに。

(29) A：さっき知ったんだけど、中国って世界で一番人口が多いんだね。

B：そんなことも知ランカッタンカテ。

(30) A：このパン食べる？

B：賞味期限が切れたパンなんて要ランテ。

(27) ～ (30) で「テ」が使用されているのはすべて、話し手の考え・意見・認識と聞き手の発話内容がずれている、ということを話し手が明示したい場合である。それぞれの例文においての「ずれ」を詳しく見ていくと以下のようになる。

(27) では、Bは「山田は計算が苦手だ」「山田に難しい計算などできない」という考えを既に持っている。しかしAは「山田は問題が解けるかもしれない」と思い、それをBに尋

ねている。(28) では、Bは「飲み会を開くなら、事前に知らせておくべきだ」という考えを既に持っているが、Aの発話は突然飲み会が開かれることを知らせ、お酒の買出しを頼む、というものである。(29) では、Bは「中国が世界で一番人口の多い国だということは常識的な事実だ」という考えを持っているが、Aは先ほどまでそれを知らなかったという発話をしている。(30) では、Bは「賞味期限の切れたものは食べたくない」「賞味期限の切れた食べ物を他人にすすめるものではない」という考えを持っているが、AはBの考えに反する内容の発話をしている。

以上のように、上の例では、Aの発話にはBの考えとの間でずれが見られる。

一方、「テ」が使用されないと、「話し手の考え・意見・認識と聞き手の発話内容がずれている」という話し手の気持ちが前面に表れない。

(31) A：山田君はこの計算問題解けるかな？

B：あいつには無理｛φ／ヤ｝、こんな難しい問題。

(31) では、Bは単に自らの考えをAに述べているだけで、「テ」が使用されるときにその発話が帯びる「無理に決まっているじゃないか」といったニュアンスをもっていない。

「話し手の考え・意見・認識と聞き手の発話内容のずれを明示する」という特徴を持つ「テ」は結果的に、「話し手が自らの考え・意見・認識を当然だと思っている」ことを表すという発話においても使用される。この場合、話し手の意見が確定していなかったことを示すような副詞類と「テ」は共起しない。一方で「もちろん」「そりゃあ」などといった副詞とは共起しやすい。

(32) A：お前もカラオケ行くの？

B：｛もちろん／*じゃあ／*うーん／*よし｝行クテ。

(33) A：この牛肉、５千円もするの？

B：そりゃあ、神戸牛だからそれくらいはスルテ。

また、疑問文とともに「テ」が用いられ反語的な意味となることがある。

(34) A：俺、宝くじで一億が当たった。

B：本当カテ。

(34) では、Bの発話は疑問文の形をとっているが、Bは実際は「Aの発話内容は嘘だろう」と思っている。Bには「宝くじで一億が当たるなどということが身近にあるものか」「Aはいつも嘘ばかりついていて、信用ができない」という考えがあり、Aの発話がそれに反しているため「テ」が使用される。純粋な疑問であれば (35) のようになる。

(35) A：俺、宝くじで一億が当たった。

B：ほんとう｛φ／に｝？

以下の例も疑問文が反語的に用いられているものである。

(36) A：さっき階段から落ちて怪我してしまった。

B：すごくたくさん血が出てるよ。大丈夫？

A：うん、平気。大丈夫。

B：ほんとうに大丈夫カテ。

(37) A：はい、これ広島のお土産。

B：広島なんていつ行ったの？

A：昨日。

B：おい、いつ行ットルンヤテ。じゃあ授業は全部休んだの？

A：うん。

反語的に用いられる疑問文に「テ」が用いられていることも、「話し手の考え・意見・認識と聞き手の発話内容のずれ」から説明できる。

また、苛立ちやあきれなどネガティブな感情を前面化するものばかりではなく、「テ」は(38)(39)のように聞き手を励ますような場合も使用される。

(38) A：今日の試験、分からない問題ばかりだった。単位落としたかも。

B：大丈夫ヤテ。あの先生、甘いらしいよ。

(39) A：鈴木君ちゃんと来てくれるかなあ？

B：心配しなくても鈴木君なら来ルテ。

4.3.　第一発話から用いられる「テ」

話し手の考え・意見・認識とずれを起こすのは聞き手の発話内容だけではない。聞き手の行動や周囲の状況が、すでに話し手の考え・意見・認識とずれを起こしている場合がある。このような場合、それまで会話のやりとりが無くても、いきなり初めての発話から「テ」を用いることになる。

(40)（一切勉強しているとは思えないのに、いつもテストで高得点を取るクラスメイトに向かって）

なんでお前そんなに頭良インヤテ。

(41)（もうすぐ来客があるのに、リビングでおもちゃを散らかしている子どもに向かって）

父親：こんなときに散ラカスナテ。はやく片付けろ。

(40)は、「いつも勉強していなさそうだから、テストの点数も悪いだろう」という話し手の考えと、実際にその人が高得点を取っているという事実にずれがあるのである。(41)は、話し手の「客が来るときは、部屋をきれいにしておくべきだ」という考えと、そうすべきはずの子どもが部屋を散らかしている、という状況にずれが生じている。

しかし(41)と同様に第一発話から「テ」が用いられている(42)の例は不適切である。

(42)（今から知人が訪ねてくるという電話を受けた直後に子どもに向かって）

父親：#おい、今から田中さんがうちに来るぞ。すぐに掃除シロテ。

(42)では、子どもは父親の発話によってはじめて客が来るということを知る。そのよ

うな状況では、聞き手の行動や状況をすぐさま一方的に「ずれ」として言い放つことはできず、したがって「テ」をいきなり使用することはできない。

4.4. 独話文で用いられる「テ」

聞き手が存在しない独話文においても「テ」は使用される。

(43)（11月なのに真冬並みに寒い。外を１人で歩いていて）
なんで最近こんなに寒インヤテ。

(44)（乗るはずのバスが30分待っても来ない　バス停で１人で）
遅いなー。バスマダカテ。

(45)（テレビの野球中継　ホームランを打たれたピッチャーに）
おいテ。なにシトルンヤテ。

上の例文の場合、例えばバスの運転手やピッチャーを思い浮かべて発話をしていると考えられるが、実際に誰かに向かってその発話を行っているのではない。このような「テ」は想定どおりにいかないときの苛立ちや不満を漏らす際に用いられることが多い。一方、同じ独話文でも、(46) のように何かを思い出したという場面での発話では、その事柄について話し手が考えや認識を既に持っているわけではないので、「テ」を使用すると不適切となる。

(46) #あっ、そういえば今日は眼科に行クンヤッタテ。

4.5. 同意や賛成を表す発話に用いられる「テ」

これまで、「話し手の考えや意見とのずれ」が起こる状況、という観点で「テ」の使用例を挙げたが、(47) ～(49)のように同意や賛成を示す発話においても「テ」が用いられる。

(47) A：（田中君に向かって）田中君、学級委員に立候補したら？
B：ソウ {?φ／?ヤ／ヤテ}。僕も田中君が一番いいと思う。

(48) A：あの店のカレーライス、高すぎるよね。
B：ホントウ {?φ／?ヤ／ヤテ}。たいして美味しくないのに。

(49) A：山田君にはこの計算問題解けないよね？
B：うん、あいつには無理 {φ／ヤ／ヤテ}、こんな難しい問題。

(47) ～ (49) の例文において、「テ」を用いると、「まさに自分もそう思っていた」という話し手の強い同意や賛成を表す気持ちが前面に出る。

同意や賛成を示す発話にはもちろん「話し手の考え・意見・認識とのずれ」は無く、「テ」は「話し手が自らの考え・意見・認識とのずれを明示する」働きをしていない。「話し手の考え・意見・認識とのずれ」が起こる状況で使用される「テ」は、ずれているということを明示するという特徴のために、必然的に話し手の考えなどを強く聞き手に訴えかけることとなる。同意や賛成を表す発話に使用される「テ」は、その聞き手への強い訴えかけ

という特徴だけを借りて使用されるようになったものではないかと思われる。

4.6.　対人的ムードの「のだ」に後接する「テ」

§4.1.～4.5.に挙げた「テ」は意味や文脈に応じて選択して用いられるものであったが、(50)～(53)のような対人的ムードの「のだ」の例文では、「テ」がないとおかしな文になってしまい、「テ」の使用が必須となる。

(50) 昨日美術館行ッタンヤ {*φ／テー}。そしたら小学校の時の同級生に会ってびっくりした。

(51) A：お前意外と力持ちだな。
B：実は僕、中学生のとき柔道ヤッテタンヤ {*φ／テー}。

(52) 私の隣の家の人、いつも大声で歌ッテルンヤ {*φ／テー}。上手かったらまだいいんだけど、音痴だからすごく迷惑。

(53) A：その靴どうしたの？
B：あっ、気付いた？昨日買ッテキタンヤ {*φ／テー}。

(50)～(53)では全て「テ」がノダ文に後接しており、ノダ文が、聞き手の知らないことを話し手が説明しているという点で共通している。このノダ文は野田春美(1997)のいう「対人的ムードの「のだ」」であることが特徴として挙げられる。野田は対人的ムードの「のだ」を、「話し手の認識している既定の事態Qを聞き手に認識させようという話し手の心的態度を特に表現するときに用いられるもの」としている。

さらに野田は、対人的ムードの「のだ」がよく用いられる場合として、話し手だけが知っていることを「告白」するような場合、聞き手の知らないことを言い聞かせる「教示」の場合、聞き手に認識してほしいことを「強調」する場合、を挙げている。(50)～(53)の例は「告白」になるであろうが、野田は「告白」「教示」「強調」などと分類することは困難だとしている。

§4.1.～4.5.の中で使用される「テ」は、長呼されることもそうでないこともあるが、対人的ムードの「のだ」に後接する「テ」の場合は、明らかに「テー」と長呼されるのが普通である。これは、聞き手の全く知らないことを聞き手に認識させようという話し手の心的態度と関係があるのだと思われる。

(54) 佐藤君の家に行くには、まず駅を出て100mくらい北に進ムンヤ {*φ/テー}、それから右手の花屋の角を曲ガルンヤ {*φ／テー}、それで…

(55) これ何か分からないだろ？月の石ナンヤ {*φ／テー}。

(56) 実は僕のお父さん、警察官なんだ。＜共通語＞

(57) 実は僕のお父さん、警察官ナンヤテー。＜岐阜市方言＞

(54)、(55)に示したとおり、対人的ムードの「のだ」には必ず「テ」が後接し、それ以外では不適格となる。また、共通語の例文(56)と、「のだ＋テ」で構成された岐阜市方

言の例文（57）が同じ意味を表すことから、「テ」のみで機能を持っているとは考えにくい。共通語とは異なり、岐阜市方言では「のだ」のみで対人的ムードを表すことはできない。

（58）ノート貸してくれない？明日テストがある｛?ノ／?ンヤ／?ンダ｝

（58）のような「のだ」の使用は、とても共通語的に感じられ、岐阜市方言話者にとっては不自然なものとなってしまう。「テ」の後接が必須になるのである。

（59）ノート貸してくれない？明日テストがアルンヤテ

5. まとめと今後の課題

以上、岐阜市方言の文末詞「テ」の特徴は以下のようにまとめられる。

（A）生起する環境の特徴

○「テ」は文タイプによる共起制限はない。（§3.1.）

○「テ」は他の文末詞と共起しない。（§3.2.）

（B）意味・用法の特徴

① 話し手が、自らの考え・意見・認識と、それに関する聞き手の言動や状況とのずれを明示する。（§4.1.～4.4.）

② 話し手の考えや意見を強く聞き手に訴えかける。（§4.5.）

③「のだ＋テ」の形式で、話し手の認識している既定の事態を聞き手にも認識させようという話し手の心的態度を表現する。（§4.6.）

ただし今後は、今回取り上げなかった文末詞「ヨ」なども分析し、それらの文末詞とさらに対照させながら「テ」を捉える必要があるだろう。筆者の内省だけに頼らず、談話資料を分析するなどして「テ」や他の文末詞の使用実態を確認すると新たな視点が開けるとも考えられる。また、岐阜市方言の「テ」と共通語の「って」「ってば」には重なる用法が多く、今後詳しく共通語の「って」「ってば」を分析し、「テ」と対照させることで、さらに「テ」の特徴をつかむことができると考える。

【参考文献】

渋谷勝己（2000）「山形市方言における文末詞ズ」『阪大社会言語学研究ノート』2　大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

野田春美（1997）『の（だ）の機能』くろしお出版

藤田保幸（1999）「引用構文の構造」『国語学』198

船木礼子（2000）「山口方言の文末詞チャ」『阪大社会言語学研究ノート』2　大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

しばた　たくや（大阪大学学部生）

gifu_miwa_home@yahoo.co.jp